北九州市立幼稚園の園長及び教員としての資質の向上に関する指標

資　質		ステージ0	ステージ1	ステージ2	ステージ3	ステージ4	
		【教職準備期】	【教職基礎形成期】	【教職資質向上期】	【教職資質充実期】	【教職資質発展期】	
		教職現場での実践的課題を見通し、求められる資質の基盤を形成する。	チーム園の一員として教育に関する基礎的・基本的な資質・能力を形成する。	指導（保育）力を発揮し、ミドルリーダーとして主体的に園運営に参画する。	高い指導（保育）力を発揮するとともに、重要な校務分掌の責任を担い、園運営を推進する。	高い指導（保育）力や豊富な経験を生かし、学級（園）運営を推進する。 （教諭等）	豊富な経験を生かし、広い視野で組織的な園運営を行う。 （管理職）
教職の素養	A 豊かな人間性	法令やマナーについて理解し、基本的なコミュニケーション力を身に付けている。	教育公務員として法令を遵守し、社会人としてふさわしいマナーやコミュニケーション力を身に付けることができる。 自己実現を目指し、園外の事にも目を向けながら社会性を磨き、幅広い教養を身に付け、業務改善、ワーク・ライフ・バランスの視点をもちながら、教育活動を展開することができる。				管理職の指標は、「北九州市立学校の校長及び教員としての資質向上に関する指標」ステージ４（管理職）を参照
教職の素養	B 使命感	教育公務員の使命を理解している。	教職への高い使命感、北九州市への深い理解、社会の変化に対応しながら新たなことに挑戦する姿勢をもち、熱意をもって教育活動を展開することができる。				
教職の素養	C 人権尊重の精神	人権尊重の精神に基づき、人権に配慮した行動をとっている。	人権尊重の精神に基づき、高い人権感覚をもち、幼児、教職員、保護者や地域との信頼関係を構築することができる。				
教職の素養／チーム園を支えるマネジメント	D 園組織の理解と運営	学級担任の役割、園組織、協働性の意義を理解している。	チーム園の一員として、園の経営方針に基づいた学級経営の方針を立て、指導（保育）することができる。 学級事務を正確・丁寧に行い、効率的に処理することができる。	ミドルリーダーとして、園の経営方針の実現に向けて園の運営に参画することができる。 学級事務について、他の教職員に範を示すことができる。	園運営におけるリーダーとしての役割を自覚し、園の経営方針の実現に向けて園の運営を推進することができる。 学級事務について他の教職員に指導・助言を行うことができる。		
教職の素養／チーム園を支えるマネジメント	E 自己啓発人材育成	生涯にわたって自ら学び続けることの意義を理解している。	OJT、園外研修、自己啓発を通して、自己の実践力を磨くことができる。	自らも学ぶ姿勢を持ちメンターとしてメンティーの課題や悩みに気付き、支援するとともに、支え合える環境づくりに努めることができる。	自らも学び続けながら、自己の経験や専門性を生かし、他の教職員を支援することができる。		
教職の素養／チーム園を支えるマネジメント	F 危機管理	様々な問題事例を通して危機管理の重要性を理解している。	問題発生時、迅速かつ適切に対応することができる。 安全や教育効果に配慮した環境を整備し、課題について「報告・連絡・相談」を確実に行うことができる。	組織の一員として連携しながら危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。	園全体での情報の共有を推進し、危機を予測し、未然防止を図るとともに、早期対応に努めることができる。		
教職の素養／チーム園を支えるマネジメント	G 保護者や地域との連携	保護者や地域との信頼関係の構築等、連携することの重要性を理解している。	保護者や地域との信頼関係を築き、連携することができる。	自分より経験の浅い教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。	他の教職員に範を示しながら、保護者や地域との関わりを深め、連携することができる。		
保育	H 保育構想 保育展開 保育の評価・改善	幼児の実態把握の必要性や幼稚園教育要領、指導技術の基礎を理解している。 保育参観の在り方や、保護者の保育の支援、幼児の変容のとらえ方等を理解している。	幼児の実態を把握した上で、幼稚園教育要領の理解を基に、指導と評価の計画を立て、指導技術の基礎及び応用を踏まえた保育をすることができる。 自身の保育を振り返り、課題をつかみ、改善に生かすことができる。 優れた保育からよい保育のイメージをもつことができる。	教材研究を通して目指す幼児の姿をイメージし、指導と評価の一体化を想定し、幼児の実態に応じた発展的な保育をすることができる。 適切な保育評価を行い、さらなる保育力の向上を図ることができる。 優れた保育からよりよい保育のイメージをつくることができる。	園の経営方針に基づいたカリキュラム・マネジメントを行い、保育に臨むことができる。 幼児の実態に応じたより発展的な保育をすることができるとともに、指導法の情報や実践を他の教員に発信することができる。 適切な保育の評価と指導計画の改善を組織的・計画的に実践するためのカリキュラム・マネジメントを行い、全職員の保育力向上を推進することができる。		
幼児理解	I 学級経営・幼児理解	幼児理解の意義や方法、個や集団を指導するための手だてを理解している。	学級一人一人の背景を意識した学級経営を行うことができる。 幼児に寄り添い、保護者や園内組織等と連携し、保育を行うことができる。	幼児を取り巻く環境を的確にとらえた幼児理解ができる。 各年限、園全体の動きを考え、早期発見・早期対応に努め、組織的な保育を行うことができる。	園全体の幼児の状況を教職員相互で共通理解できるように働きかけることができる。 各年限、園内における諸問題の未然防止に努め、園内組織での情報の共有を図り、適切な保育を推進することができる。		
J 特別な配慮や支援を必要とする幼児への対応		特別な配慮を必要とする幼児の特性や支援の意義を理解している。	個別の指導計画等に基づき、幼児の特性や実情を踏まえた個に応じた保育及び支援ができる。	組織的な連携のもと、個別の指導計画等の改善・充実を図りつつ、個に応じた適切な保育及び必要な支援の工夫ができる。	主体的に関係機関等との連携や園内での連絡調整を図るなど、園全体での指導及び支援を主導することができる。		
K ICTや情報・教育データの利活用		保育へのICT活用に必要な操作方法及び情報活用能力・情報モラルの育成の意義や効果を理解している。	ICT 活用やデータ活用に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、幼児の実態や保育の内容を踏まえて ICT を日常的・効果的に活用して、保育を展開することができる。 幼児の情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについて指導することができる。				